

2. 流域及び河川の自然環境

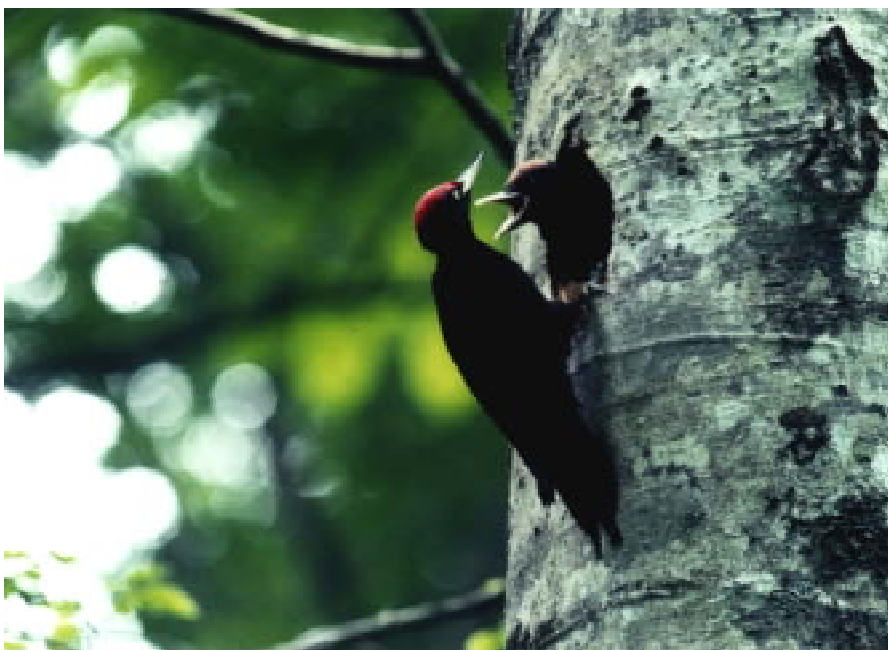
2-1 流域の自然環境

米代川流域は、原生的なブナ天然林が世界最大級の規模で分布し、世界自然遺産に登録された白神山地をはじめ、十和田八幡平国立公園や4つの県立公園があり、山麓を中心に豊かな自然環境に恵まれている。

また、上流域の奥羽山脈は、山麓を中心にスギの植林地があり、阿仁川の上流域ではスギの天然林が、それより標高が高い区域にはブナ林が分布している。

流域の南端に位置する出羽山地も山麓を中心にスギの植林地があり、中腹部にはコナラ、クリ林が分布している。また、藤琴川支川粕毛川上流部、青森県境の白神山地では、原生的なブナ林が広く分布している。下流域は米代川沿いの低平地を中心に耕地が広がり、周辺の山腹部にはコナラ、クリ林が分布している。

また、流域では貴重な鳥類が多く、特に白神山地や、阿仁川上流部及び森吉山周辺には、天然記念物に指定されたクマゲラが生息している。さらに、河口部に広がる海岸砂丘やその後背地の池沼・湿地などは、多様な自然環境に恵まれ、鳥類が多数生息・飛来している。特に河口部能代市内にある小友沼は、国際NPOである国際湿地保全連合により東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワークに登録されており、毎年、秋と春に多数のガンカモ類がその渡りの中継地として渡来する。この小友沼をはじめとする米代川河口部周辺の湖沼・低層湿原は、環境省の「日本の重要湿地500」にも選定されている。



【クマゲラ（キツツキ科）】

クマゲラは、現在、北海道と本州北部の一部で生息が確認されているが、いずれも生息個体数が極めて少ない。本州で初めて繁殖が確認されたのは、1978年に秋田県森吉山地域の天然ブナ林である。

写真提供：小笠原 嵩氏

2-2 河川の自然環境

米代川の植生では、高木群落としてヤナギ類高木群落が広く分布し、その他オニグルミ群落等が分布している。また、低木群落ではイタチハギ群落やヤナギ類低木群落等が分布し、草本群落では、オギ群落やイタチハギーオギ群落、ヨモギ群落等が植生している。海岸部には、ハマヒルガオ等の砂丘植生が見られる。

鳥類では、季節により生息鳥類が変化し、豊富な鳥類相で構成され、ササゴイやアマサギ、オシドリなどが生息する。また、米代川は、豊かな河畔林が小鳥類の生息地となり、沿川の農耕地がその採餌場となっている。さらに、河道内の砂礫地等は、渡り鳥の格好の休息地となっている。米代川は鳥類の繁殖地、渡り鳥の中継地、生息地、越冬地としての役割を担っている。

魚類では、カジカやヤマメ等が生息し、アユやサクラマス等の産卵場所がある。また、学術上、重要な種となっているトゲウオ科のトミヨも確認されている。

特に、米代川は東北屈指のアユの生息地といわれ、産卵時期（一般的には9月～10月といわれる）になると、中流部の広い瀬の続くところではアユの産卵する姿がみかけられる。

(1) 上流部

源流から花輪盆地の上流部は、沿川に河岸段丘が発達し、ブナ、アオモリトドマツ、コナラ群落が見られるほか、カジカ、ヤマメ、エゾイワナなどが生息している。



【上流部】
岩手県境の中岳の源流から花輪盆地に至る米代川上流部。

出典：能代工事事務所資料



出典：秋田魁新報社「秋田の淡水魚」



【カジカ（カジカ科）】
全国的に減少しつつあるカジカは、大河川の中上流部に生息し、礫底の瀬に多く見られる。また、成長するに従い流心部に移動する。米代川上流鹿角市等で確認されている。

出典：秋田魁新報社「秋田の淡水魚」

(2) 中流部

中流部の大館市十二所から二ツ井にかけては、狭窄部を介して東西に細長く広がる大館、鷹巣の各盆地のほぼ中央を流れている。この区間は連続した瀬と淵及び中洲が存在し、秋にはアユの産卵する姿が随所に見られるほか、河川敷内で湧水しているワンドにはトミヨが営巣する箇所もある。

河畔はオニグルミ・ヤナギ類の高木群落を主体とする植生で河畔林が形成され、ササゴイなどのサギ類や、ジネズミ、キツネなどが生息し、自然豊かな河川環境となっている。



【米代川中流部】

大館市十二所から二ツ井にかけての中流部は、狭窄部を介して東西に細長く広がる、大館・鷹巣の各盆地のほぼ中央を流れ、連続した瀬と淵及び中洲が存在する。

出典：能代工事事務所資料



【米代川中流部】

米代川中流部の河畔は、オニグルミ・ヤナギ類の高木群落を主体とする植生で河畔林が形成されている。

出典：能代工事事務所資料



出典：森吉山ダム工事事務所資料



出典：能代工事事務所資料

【アユ（アユ科）】

米代川は東北屈指のアユの生息地といわれ、秋期になると、中流部の広い瀬の続くところではアユの産卵する姿が見られる。また、全国から釣り客が訪れる釣り場としても有名である。アユは河川の中流から上流域の礫底の瀬に縄張りを形成し、中流部の浮石状の砂利底を産卵場所とする。



出典：山と溪谷社「日本の淡水魚」

【トミヨ（トゲウオ科）】

秋田県のレッドリストでは、準絶滅危惧種に指定されており、内陸の湧水地域とそこから流れ出る細川に生息する。米代川では主に、河川敷内の湧水しているワンドにトミヨが営巣している。



出典：平凡社「日本の野鳥590」

【ササゴイ（サギ科）】

秋田県のレッドリストでは、準絶滅危惧種に指定されており、繁殖場は水際近くのヤナギ林やマツ林などの樹上に単独または集団で営巣する。



出典：東海大学出版会「日本の哺乳類」

【キツネ（イヌ科）】

秋田県のレッドリストの留意種に指定されており、平地から山地の樹林やその林縁部、河川や沼沢等が散在する地域に生息する。

(3) 下流部

能代平野が広がる下流部は、河床勾配が緩く、川幅も広くなり穏やかな流れとなっている。

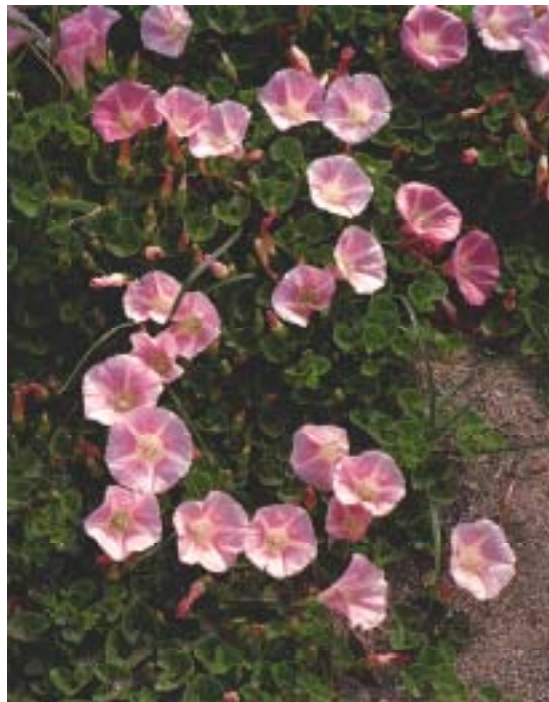
高水敷にはヤナギ類の高木群落やオギ群落等が分布し、サギ類やオシドリ、キツネなどが生息している。また、水際には抽水植物のコウホネが群落を形成しているほか、河口にはハマヒルガオ等の砂丘植生が見られる。魚類も数多く生息しており、大館盆地から河口までは魚類の遡上の妨げとなる工作物がなく河川の連続性が確保されているため、春から初夏にかけて多くのシロウオ、アユ、サクラマス等の遡上や、降海型イトヨなどがみられ米代川の河川環境を象徴している。



出典：能代工事事務所資料

【米代川下流部】

田園地帯の能代平野を蛇行しながら、日本海に注ぐ。米代川下流の高水敷には、ヤナギ類の高木群落やオギ群落等が分布する。また、水際には抽水植物のコウホネが群落を形成している。



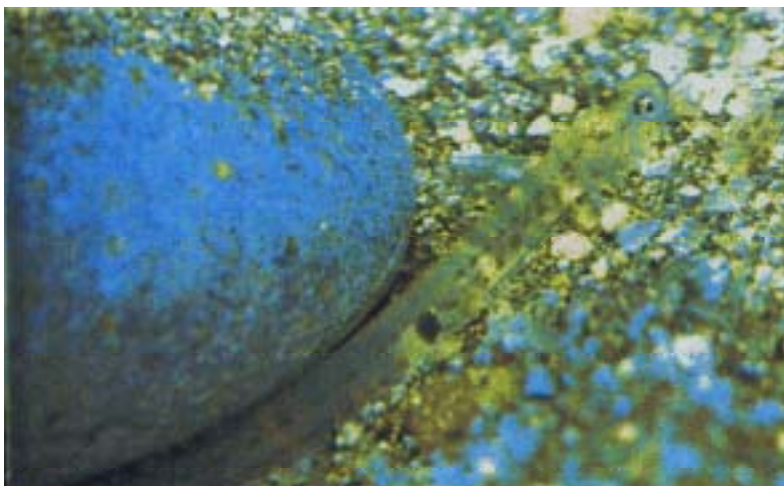
【ハマヒルガオ（アサガオ科）】
日本全土に分布し、初夏に満開となるが、南北に長い日本列島では花期に大きなずれがある。

出典：山と溪谷社「春の野草」
永田 芳男氏 撮影



【コウホネ（スイレン科）】
浅い沼地などに生息する抽水植物のコウホネ。米代川ではコウホネが群落を形成している。秋田県の池沼においては比較的普通にみられる種であるが、河川域に群落を形成するのは稀である。

出典：平凡社「日本の野生植物-II」 姉崎一馬氏 撮影



【シロウオ（ハゼ科）】
環境省のレッドリストでは、準絶滅危惧に指定されており、成魚は波の緩やかで水のきれいな沿岸域に生息し、3月頃下流域に遡上する。

出典：山と溪谷社「日本の淡水魚」

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 観光・景勝地

米代川流域は、河口部において日本海沿いに連なる日本最大規模の面積である黒松林「風の松原」や、二ツ井町の米代川沿川の県立自然公園きみまち阪、県の名勝地として指定されている小又峡、白神山地などの豊かな自然による名勝・景勝地が分布し、行楽期には多くの観光客で賑わっている。



出典：能代市資料

【風の松原】

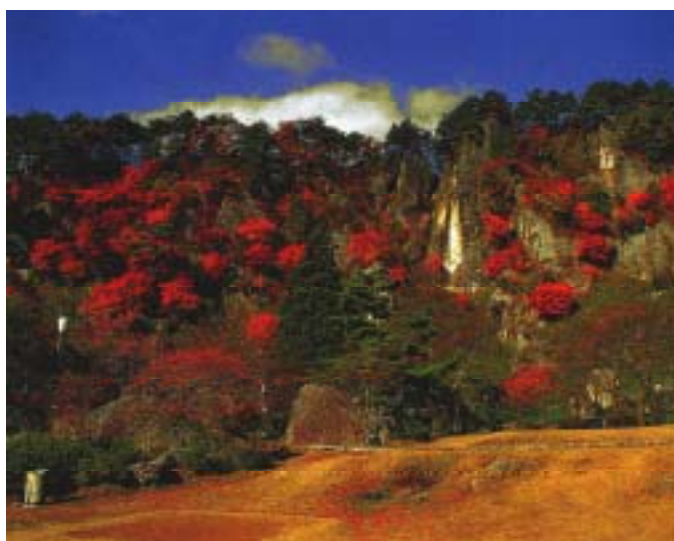
幅1 km、総延長14 kmの日本最大規模の大きさを誇る黒松林で、能代市の日本海沿岸部に位置する。江戸時代から防砂林として植栽がはじまったもので、現在は樹齢100年を超える黒松が700万本程あり、環境省の日本の音風景100選に選ばれている。



【小又峡（三階滝）】

出典：能代工事事務所資料

小又峡は、森吉山東麓のノロ川原生林に源を発し、大小100を越える瀑布、おう穴、深淵から成る原生峡で、県の名勝天然記念物に指定されている。



—きみまち阪公園— 出典：能代工事事務所資料

【県立自然公園きみまち阪】

その昔「天地の大観、みなこにあつまる」と詠われた名勝地。大きな奇岩がそびえる屏風岩が一番の名所であり、眼下に蛇行する米代川と、原生林の七座山を眺望する。「きみまち阪」は、東北巡幸中の明治天皇が皇后からの便り（和歌）を受け取った天皇の思い出の地として、のちに当時の宮内省を通じて命名された。



—七座山—

出典：能代工事事務所資料

(2) 文化財・史跡・天然記念物等

米代川流域には歴史的に重要な文化財・史跡等が多く、国指定で14件、国選定で3件、県指定で65件の文化財がある。

主な文化財等は米代川沿川に集中しており、なかでも能代市周辺と大館市、鹿角市に多く分布している。とくに秋田県北地方の秋田犬や比内地方の比内鶏は全国的にも知られている。また、大館市には天然記念物であるニホンザリガニの南限生息地、鹿角市には国の特別史跡である大湯環状列石や国の重要無形文化財に指定されている大日堂舞楽を伝える神社などがあるほか、森吉町から阿仁町にかけて天然記念物の桃洞・佐渡のスギ天然林が分布する。

また、県指定のものとしては県の名勝・天然記念物である小又峡や、浄明寺山門、北鹿ハリストス正教会聖堂、異人館、柏子所貝塚などがあげられる。



図2-1 米代川流域の国指定文化財等分布図 資料：秋田県資料



出典：阿仁町資料

② 【旧阿仁鉱山外国人官舎】

明治15年、鉱山技師として招かれたドイツ人のために建てられたルネッサンス風の煉瓦造りの洋館。外人技師帰国後、政府高官や鉱山関係者の迎賓館として利用された。



出典：鹿角市教育委員会資料

③ 【大湯環状列石】

野中堂環状列石と万座環状列石（ストーンサークル）を中心とする約4,000年前（縄文時代後期）の大規模な遺跡。環状列石は組石遺構が二重の環状に並べられたもので、列石の中心から見て北西の位置に「日時計状組石」が作られているのが特徴である。



出典：大館市資料

⑧ 【秋田犬】

昭和6年7月、日本犬では最初に天然記念物に指定された。現在では、天然記念物7犬種の一つとなっている。狩猟（マタギ）には絶対に欠くことの出来ない伴侶である。



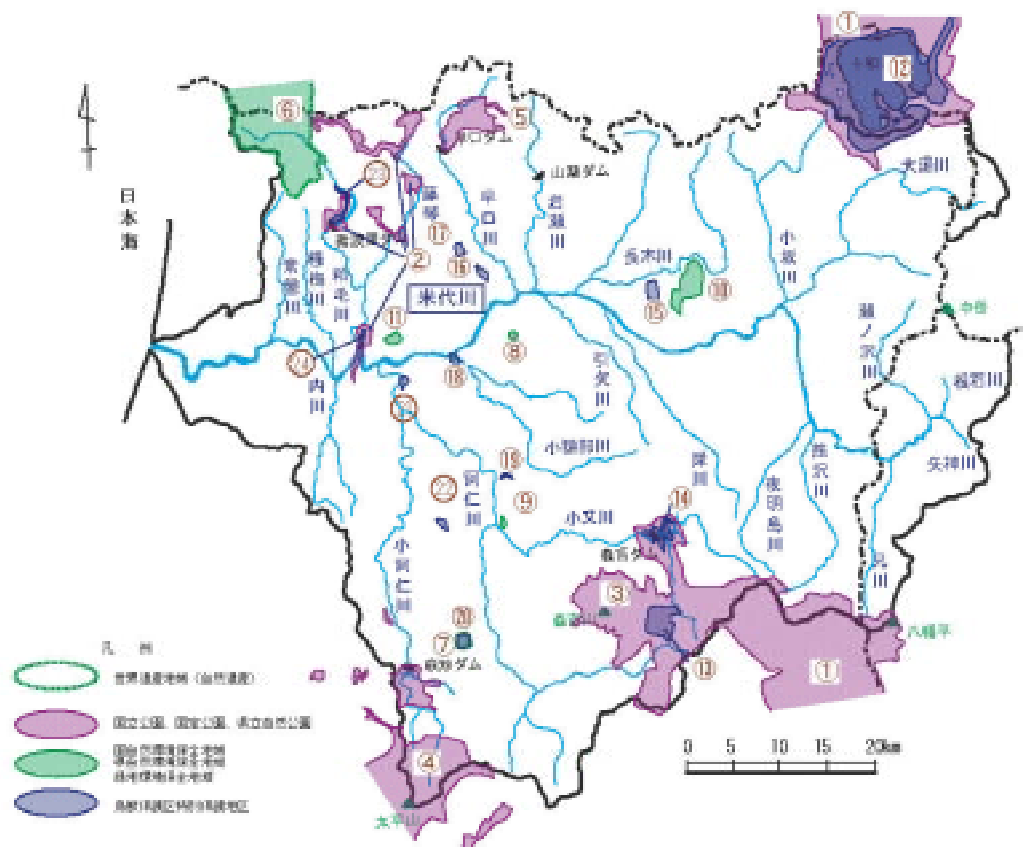
出典：比内町資料

⑪ 【比内鶏】

薩摩鶏、名古屋コーチンと並ぶ日本三大美味鶏のひとつ。よく締まり香味の高い肉質が特徴で、原種は昭和17年に国の天然記念物に指定されたため、現在ではその特徴を強く受け継いだ一代交配種を、昔ながらの放し飼いで1年以上の時間と手間をかけて育てている。

2-4 自然公園等の指定状況

豊かな自然環境に恵まれた米代川流域は、広大で原生的なブナ林が評価され世界遺産に登録された白神山地をはじめ、十和田八幡平国立公園や4つの県立自然公園が指定されている。とくに、米代川の沿川では、きみまち阪藤里峡県立自然公園が指定されている。



自然公園等指定状況一覧

番号	名 称	指定区分
①	十和田八幡平国立公園	国立自然公園
②	きみまち阪藤里峡県立自然公園	県立自然公園
③	森吉山県立自然公園	
④	太平山県立自然公園	
⑤	田代岳県立自然公園	
⑥	白神山地	世界遺産地域（自然遺産）
⑦	露熊山峡	国自然環境保全地域
⑧	鞍山風穴	県立自然環境保全地域
⑨	小又風穴	
⑩	長木溪谷	県緑地環境保全地域
⑪	今泉	

平成12年2月1日現在

番号	名 称	指定区分
⑫	十和田	鳥獣保護区特別保護地区
⑬	森吉山	
⑭	太平湖	
⑮	大館長根山	
⑯	長坂山	
⑰	二本杉岩谷	
⑱	陣馬岱	
⑲	桂瀬	
⑳	露熊	
㉑	増沢木戸石	
㉒	仏社沢	
㉓	素波里	
㉔	きみまち阪	

図2-2 米代川流域の自然公園等指定状況図

資料：秋田県生活環境部自然保護課「秋田県生物多様性保全構想」